

東アジア低出生力による人口高齢化の展望と対策に関する国際比較

「中国高齢化の地域比較」

関西学院大学国際学部 伊藤正一

1 はじめに

中国では、経済改革・開放政策が開始された 70 年代末以来、急速な経済発展を達成してきた。同時に、全国レベルで一人っ子政策が展開されてきた。そのような状況下で、高齢化が進みつつある。2000 年代以降、労働市場の転換点が議論の対象となってきた。2013 年には、中国の一人当たり GDP も 6000 ドルを上回る水準にまで達し、中所得国になった。この状況下で、高齢化が進展することは、人口ボーナスが人口オーナスに転じ、中所得国から高所得国へ移行が困難になり、中所得国の罠に陥る可能性が高くなる。中国では、この状況から「未富先老」と呼ばれている。そのために、全要素生産性、技術水準、人的資本の向上、そのための政策として、内需主導型経済成長、国内雁行型発展、後発国の技術的優位性の活用が指摘されている¹⁾。人口高齢化は、高齢者の年金を中心とする経済的保障、医療面での保障が大きな課題として考えられる。

本報告の目的は、中国の高齢化の状況が地域間でどのように異なっているのか、それに対する政策が地域によって同じなのか、異なっているかを、中国語文献・資料を用いて検証することである。

2 中国高齢化の現状

2011 年中国の 60 歳以上人口は 1 億 8499 万人で、総人口の 13.7% である。65 歳以上人口も、90 年に 0.64 億人であったが、92% 増加し、2012 年には 1.23 億人にまで達している。表 1 が示すように、65 歳人口の全体に占める割合は、82 年の 4.9% から 2012 年には 9.4% にまで増加している。80 歳人口は、1982 年から 2011 年にかけて年平均 5.11% 増加し、65 歳以上人口も年平均 3.16% 増加している。そして、中国で 1950 年代、60 年代に生まれた人々が、2010 年から 40 年にかけて 60 歳以上人口にはいって行く。1982 年の中国の 65 歳以上人口は、4991 万人であり、2012 年のそれは 1 億 2714 万人で 82 年の約 2.55 倍であり、厳密ではないが約 15 年間で倍増すると考えられる。今後、このように、中国の高齢化を考える場合には、その規模と高齢化の速度を考えておく必要がある。²⁾

包玉香 (2012) によると、2007 年の世界銀行の統計を用いて、中国の人口高齢化の主な 6 つの特徴として、高齢者の人口規模が巨大で、高齢化の速度が速く、地域発展が不均衡で、都市農村の差が顕著で、女性高齢者人口が男性のそれよりも多く、高齢化が現代化よりももっと早く起こっていることであるとしている。そして、これらの特徴が、今後中国の人口高齢化の深刻な問題をもたらすとしている。³⁾

田雪原 (2008) も、中国の高齢化を 3 つの段階に分けられるとしている。第一段階は、2000 年から 2020 年で 65 歳以上人口の割合が 6.92% から 9.92% に上昇し、第二段階は、2020

年から 2040 年で同人口の割合が 2040 年に 21.96%に達し、第三段階は、2040 年以降で 65 歳以上人口の割合の上昇は緩やかになり、2050 年に 23.07%、2100 年には 24.41%になるものとしている。4) United Nations(2011)によると、中国の 65 歳以上人口は、2010 年に 1 億 984.5 万人で、2040 年に 3 億 1709.3 万人、2050 年に 3 億 3120.4 万人、2060 年に 3 億 5709 万人となり、その後は減少するとしている。そして、高齢者扶養率(=(65 歳人口 / 15-64 歳人口) * 100) は、2010 年に 11 であるが、2030 年に 24、2040 年に 37、2050 年に 42、そしてその後も上昇し、2060 年に 52、2080 年には 55 に達し、その後若干では

あるが低下する。5)

年	0-14歳	15-64歳	65歳以上	高齢者 扶養比率
1982	33.6	61.5	4.9	8.0
1987	28.7	65.9	5.4	8.3
1990	27.7	66.7	5.6	8.3
1991	27.7	66.3	6.0	9.0
1992	27.6	66.2	6.2	9.3
1993	27.2	66.7	6.2	9.2
1994	27.0	66.6	6.4	9.5
1995	26.6	67.2	6.2	9.2
1996	26.4	67.2	6.4	9.5
1997	26.0	67.5	6.5	9.7
1998	25.7	67.6	6.7	9.9
1999	25.4	67.7	6.9	10.2
2000	22.9	70.1	7.0	9.9
2001	22.5	70.4	7.1	10.1
2002	22.4	70.3	7.3	10.4
2003	22.1	70.4	7.5	10.7
2004	21.5	70.9	7.6	10.7
2005	20.3	72.0	7.7	10.7
2006	19.8	72.3	7.9	11.0
2007	19.4	72.5	8.1	11.1
2008	19.0	72.7	8.3	11.3
2009	18.5	73.0	8.5	11.6
2010	16.6	74.5	8.9	11.9
2011	16.5	74.4	9.1	12.3
2012	16.5	74.1	9.4	12.7

(出所)「中国人口和計画生育年鑑、2013」、417頁。

中国の農村部においても、高齢化は着実にすすんでいる。2009 年末までに、農村の 60 歳以上人口は 1.05 億人で農村人口全体の 18.3%を占めている。中国農村部における人口高齢化は、今後も継続し、2045 年には 80 歳以上人口の農村人口に占める割合は 22%を超えると推測されている。6)王勝今・干瀟等(2012)によると、中国の工業化・都市化に伴い、大量の農村若年労働者が都市に移動し、結果として経済発展水準で遅れている農村部で高齢化が進行していると指摘している。この現象は 2000 年以降に現れてきている。例えば、2000 年の中国全体の 65 歳以上人口の割合が都市部で 6.4%であるのに対して、農村部では 7.5%であった。2006 年 6 月に実施され

た「中国城郷老年人口状況追跡調査」によると、中国の 60 歳以上人口は、1 億 4657 万人で、都市部のそれは 3856 万人で全体の 26.3%、農村部のそれは 1 億 801 万人で全体の 72.5%を占めている。このことから、中国の高齢者問題を考えるときに、農村の高齢者問題がいかに重要であるかを示している。7)

3 地域から見た中国の高齢化の概況

2011年中国の人口高齢化の状況は、地域によって大きく異なる。具体的には、同年の重慶と四川のそれぞれの65歳人口の総人口に占める割合は、12.42%と12.03%である。一方、チベットと寧夏のそれは、それぞれ4.83%と5.48%である。8)

表2は、2012年の中国の地区別65歳以上人口の占める割合を示している。全国平均は9.4%であるが、その割合が最も高い省は、重慶市と四川省で、それぞれ12.9%と11.81%であり、それに続いて江蘇省(11.5%)、湖南省(11.11%)が11%以上である。他方、その割合が最も低い省は、チベットで5.41%、それに続いて7%前後以下の省は、寧夏(6.63%)、新疆(6.8%)、広東(6.98%)、青海(7.01%)となる。

重慶と四川はともに、中国で農村労働力の送り出し地域として有名であり、15 - 64歳人口が流出により減少し、結果と

表2 地区別65歳以上人口の割合と扶養率(単位: %、2012年)

	65歳以上 人口割合	総扶養率	
			高齢者 扶養率
全国	9.40	34.88	12.68
北京	8.60	21.91	10.48
天津	10.46	28.52	13.44
河北	9.09	37.06	12.46
山西	7.97	31.01	10.44
内モンゴ	7.87	27.76	10.06
遼寧	9.94	25.50	12.47
吉林	7.74	24.98	9.67
黒竜江	8.84	26.52	11.18
上海	9.01	21.18	10.92
江蘇	11.50	32.73	15.26
浙江	8.75	26.72	11.09
安徽	10.32	39.72	14.42
福建	8.59	33.89	11.50
江西	8.09	42.05	11.49
山東	10.51	36.33	14.33
河南	8.82	41.59	12.49
湖北	10.76	33.06	14.32
湖南	11.11	42.35	15.81
広東	6.98	30.47	9.11
広西	9.33	45.87	13.70
海南	7.27	35.82	9.89
重慶	12.90	41.50	18.26
四川	11.81	38.97	16.42
貴州	9.16	47.33	13.49
雲南	7.76	37.57	10.67
チベット	5.41	37.99	8.50
陝西	9.28	30.44	12.10
甘肅	9.24	34.75	12.45
青海	7.01	38.17	9.69
寧夏	6.63	38.88	9.20
新疆	6.80	37.53	9.34

(出所)「中国人口和計画生育年鑑、2013」、428頁。

して65歳以上人口の占める割合が高くなっていると考えられる。しかしながら、江蘇省は発展している沿海地域、特に上海の隣に位置しているために労働力の流入が多いと考えられる。その状況の中で65歳以上人口の割合が高い理由として考えられることは、65歳以上人口の流入が多いのか、元々65歳人口が多いことが考えられる。湖南省のその割合が高いことは、重慶と四川の理由と同じであると考えられる。

チベットの場合、2010年の平均寿命(全国平均は74.83歳)は68.17歳で31省・自治区・直轄市の中で最も低く、そのことが65歳以上人口の割合が最も低い状況をもたらしていると考えられる。青海についても、同様に平均寿命は69.96歳と下から3番目である。青海は、チベット族が多く住むことでも知られている。新疆は、西北地域の中でも自治区外からの労働力の流入が多い。広東は、沿海地域で80年代から労働力の流入が顕著な省で

ある。このように、新疆と広東については、外部からの労働力の流入が、65歳以上人口の割合を低くめている要因と考えられる。

北京、上海は、経済的に発展している地域であり、一人当たり所得も最も高い2直轄市である。そのために、一人っ子政策の中でも特に少子化が進んでおり、結果として高齢化が進み、65歳以上人口は高いと考えられる。しかしながら、2012年の北京・上海の65歳以上人口は、それぞれ8.6%、9.01%と平均を下回っている。これら両市についても、その理由は、市外からの労働力の流入が地域としての65歳以上人口の割合を低くしていると考えられる。

4 地域から見た中国高齢化の問題

中国の高齢化は、地域によって大きく異なる。ここでは、浙江省、吉林省、山東省、広東省広州市の高齢化について調べる。

何文炯等(2013)によると、浙江省では、平均寿命の延長、出生率の低下により高齢化が加速的に進んでいるとしている。浙江省戸籍を持つ人口に占める65歳以上人口の全体に占める割合は、2005年に14.12%、2010年には16.66%にまで増加している。結果として、2015年には浙江省の常住人口の60歳以上人口は18.13%になり、全国平均を上回り、2020年には21.07%、今世紀中には44.18%(2055年)に達するとしている。浙江省の戸籍人口の60歳以上人口の全体に占める割合は、2015年に20.45%、2020年には24.15%になっている。浙江省戸籍の65歳以上人口の割合については、2010年に11.6%、2030年に24.7%、そして2050年には36.2%にまで達すると推計している。

この人口高齢化から、高齢化、少子化、家庭の小型化、独居の問題、経済社会の転換期の様々な矛盾が様々な社会生活面に影響を与えている。これらのことは、浙江省の社会保障と公共財政支出の増大をもたらし、労働年齢人口への負担の増加、社会負担、政府責任の増大を意味するとしている。浙江省は、中国全国の中でも農村合作医療制度、都市住民基本医療保険制度、都市・農村一体化の社会年金保険制度の実施においては先行している。

何文炯等(2013)は、そのような状況でも問題は存在すると指摘し、一部高齢者の基本的社会保障は十分でなく、生活水準、健康面、高齢者へのサービスの供給が十分でない、としている。1)高齢者の経済保証は十分でなく、高齢者の基本生活に影響を与えている。2)高齢者の医療保障の程度が十分でなく、高齢者の健康に影響を与えている。3)高齢者に対するサービスの社会化が十分でなく、そのサービスの供給が不足している。高齢者への社会保障サービスの資源配分の不合理さの問題、社会保障体制の不健全さを指摘している。

吉林省については、65歳以上人口は1900年に110.4万人で省人口全体の4.53%を占めるだけであった。2007年には、65歳以上人口は237.48万人で、その割合は8.81に達している。様々な仮定を前提に推計すると、吉林省の平均寿命は、男性の場合74.36歳、

女性の場合 79.16 歳である。その推計によると、65 歳以上人口の割合は、2010 年に 8.90%、2015 年に 11.25%、2020 年に 15.43%、そして 2025 年に 19.5%と、65 歳以上人口は 5 年ごとに 4%上昇している。そして、2040 年の 65 歳以上人口の割合は 34.52%、2050 年に 39.55%にまで上昇する。8)

山東省の場合、包玉香(2012)によると、65 歳以上人口の割合は 1990 年に約 6%で、2003 年には 9%を超え、2005 年以降は約 10%の水準である。山東省の場合、同じ省内においても地域で異なっている。例えば、2007 年の高齢者の一人当たり所得の場合、山東省の東部と西部で、それぞれ包玉香 767 元と 326 元で大きく異なっている。山東省の都市、町、農村の人口に占める 65 歳以上人口の割合は、それぞれ 8.65%、9.07%、10.31%であるが、済南市のそれらは 9.86%、9.09%、9.88%であり、青島市のそれらは 8.86%、9.24%、13.47%である。このように中国の地域間だけでなく、同じ省であっても内部の地域間で高齢化の状況は異なっている。

広州市については、65 歳以上人口の全体に占める割合は、1982 年に 5.74%、1990 年に 6.3%、2000 年に 6.1%、2005 年に 7.56%となっている。この数字は、広州市の広州市戸籍の人口と外来人口の合計の数字である。2005 年の広州市戸籍の 65 歳以上人口の割合は 9.45%であり、外来人口に占める 65 歳以上人口の割合は 1.19%であり、戸籍のあるなしで 65 歳以上人口の割合は全く異なることが明らかである。広州市の場合、12 地区が存在するが、地区別の 65 歳以上人口は、最高は 11.97%で最低の地区のそれは 4.87%で、同じ広州市でも地区によって大きく異なる。広州市戸籍人口に占める 65 歳以上人口の割合は、3 地区のそれは、それぞれ 13.88%、13.66%、12.88%であり、他の地区のそれは 9%未満で、最も低い地区のそれは 6.53%である。広州市の外来人口の 65 歳人口は、最も高い地区で 3.82%で最も低い地区のそれは 0.55%である。これらの数字は、各地域の高齢化を考える場合、外来人口を考慮に入れる必要性を示している。9)

広州老年学会(2010)は、広州市の老人との生活状況調査を通じて、その状況と様々な問題を明らかにしている。例えば、人口高齢化の女性化、高齢化によって、高齢者の性別・年齢構造に大きな変化をもたらしている、高齢者の所得水準は低く、ある一定水準には達しているが、個人をめぐる突発性事件によって経済的に影響を受けやすい、老人が住む居住地域の公共施設は十分でなく、特に農村においてそうである、老人によると、十分な医療保険・医療保障を受けているとは言えない、などの問題がある。例えば、2008 年の調査結果によると、基本年金保険参加率は、都市部で 74.3%であるのに対して、農村部のそれは 8.9%に過ぎない。独居老人については、都市部老人家計に占める割合が 8.9%であるが、農村部のそれは 18.8%であり、都市部独居老人の平均年齢は 73.66 歳で、農村部のそれは 75.48 歳であり、農村部の高齢化の問題が顕著である。このような状況の中で、広州市の高齢者の扶養方法として、1998 年から 2008 年にかけて、子供と同居の割合が、都市部で 64.5%から 25.5%に減少し、農村部でも 76%から 40.5%に減少している。一方、政府が建てた無料もしくは廉価な養老院を選びたい高齢者の割合が都市部で 32.4%から 49.1%に増加し、

農村部でも 21%から 37.8%に増加している。このことは、高齢者が直面する家族・経済状況の変化が高齢者の扶養方法の選択希望に影響を与えていると考えられる。(10)

5 中国の社会保障

中国農村の社会保障は、1986 年以来貧困問題に対する政策として大規模に行われるようになった。これは、様々な地域で、具体的には広州・深圳、北京・浙江、上海・成都を代表とするモデルとして行われた。2002 年以来、農村の社会保障の充実が重視されるようになった。2008 年に中国人民大学が実施した社会調査によると、農民労働者のうち 2330 万人、農民労働者の 18.4%を占めている。しかしながら、同調査で医療保険を享受している農民の割合は 39.1%であり、年金保険を享受している農民の割合はわずか 8.3%であった。(11)ただし、王国軍(2011)は、2006 年の調査によると、中国の 1947 県中、1484 県の一人当たり平均年金額が各地の農村最低生活保障水準であると指摘している。(12)

人口の高齢化が進む中で、重要となるのが高齢者に関する社会保障である。高齢者に関する重要な社会保障は、年金保険、医療保険、そして介護保険である。中国の年金保険については、基本年金保険、企業年金保険、その他(個人の貯蓄性年金保険)からなっている。その中でも、基本年金保険は、もっとも基本的なものであり、政府が責任を負い、全労働者が参加すべき年金保険制度である。この基本年金制度は、2010 年に第 11 期全国人民代表大会常務委員会の会議を通った中華人民共和国社会保険法で示されている。同社会保険法の中に、国家の新型農村社会年金保険制度の樹立と改善を示している。(13)2000 年には、年金保険の個人口座の実験省をして、遼寧省を選び、2004 年にはこの試みを吉林、黒竜江に拡大した。ただし、このような制度の樹立・拡大とは別に、現行の中国の年金保険制度を前提として、世界銀行の予測によると 2032 年に基本年金基金は収入が支出を下回り始めるとしている。

張秀蘭(2012)は、中国の高齢者の福利体系の顕著な問題点を指摘している。(1)まだ十分な高齢者のための福利体系ができていない状態で、高齢化が進んでいる。具体的には、都市のある一定部分の人口が年金保険に加入しているが、農村部では少数の農村人口しか年金保険に加入していない。(2)中国では、これまでの戸籍制度を維持しながら、高齢化国家になりつつある。都市農村間の大きな所得格差がある状態で、農村部で独居老人の問題などが存在している。(3)中国は徐々に緩和する方向に動き始めているが、一人っ子政策を行っている状態で人口高齢化が進みつつある。これは、中後年の人口比率を急速に高める。(4)中国の市場経済化の進展と社会経済のグローバル化が進む中、労働の流動性が高まり、家庭で高齢者を養うことが困難となってきた。(5)戸籍制度がある中で、高齢化は都市農村で同時に起こっている。ただし、農村の高齢化率が都市のそれよりも高い。

(14)

高齢者の増加は、年金保険に対する需要を増加させている。山東省では、社会保障補助支出が、2000 年の 16 億 953 万元から 2006 年の 64 億 5428 万元と 6 年間に 4 倍に増加して

いる。このような社会保障支出の大幅な増加は将来の基金の収支が赤字になり、財政負担が大きく増加し、困難な問題が生じる。加えて、老人ホームなどの施設に対する需要の増大、衛星医療サービスへの需要も拡大する。山東省では、2008年に都市・農村の平均医療費用は、それぞれ1230.18元、686.22元であり、都市高齢者の平均所得の21.8%に相当し、農村高齢者の所得の42%に相当する。このことは、医療費の社会負担が増大するだけでなく、個人の所得を考えた場合大きな負担になり、特に農村では、それが顕著である。(15)

6 中国高齢化の政策対応

中国の高齢化の問題で、農村の高齢者の問題が重大であることは、様々な研究者から指摘されている。2002年の中国共産党第16大会後に新しい農村年金保険事業の展開がみられるようになった。特に、各地区での農村年金保険制度確立のための模索を開始するようになった。2007年12月に北京市が、「北京市新型農村社会年金保険試行弁法」を發布し、新型農村社会年金保険制度を確立し、個人口座、基礎年金と結びつける制度モデルを実施し、個人負担の徴収、集団補助、財政補助を結合する方式を採用した。2008年10月には、中国共産党第17期第3回中央全体会議で、個人負担の徴収、集団補助、財政補助を結合する方式でもって新型農村社会年金保険制度を確立するとした。2009年3月に政府の工作報告の中で、新型農村社会年金保険制度の実験を全国の10%前後の地域で行うとしている。このように急速に、政府は農村における高齢者に対する社会保障問題に取り組みつつある。さらに、都市・農村の年金保険制度の一体化に向けて動きつつある。(16)

<注>

1) 蔡昉(2011)、44-53頁を参照。

2) 国家統計局人口和就業統計司(2012)、14-17頁を参照。 - 2) 包玉香(2012)、22-23頁を参照。

3) 田雪原(2009)、306-307頁を参照。王勝今、干瀟等(2012)5-6頁も同様の見解を示している。

4) United Nations(2011)、383頁、459頁を参照。

5) 蔡昉(2011)を参照。

6) 王勝今・干瀟等(2012)、6-7頁王勝今・干瀟等(2012)を参照。

7) 調査は、2008年10月に標本抽出によって選ばれた都市1500名、農村900名の訪問調査によって行われた。

8) 梁宏(2010)、45-49頁を参照。

9) 王化波、白心冰(2012)、222-225頁を参照。

10) 殷允杰(2012)、39-43頁、46-47頁を参照。

11) 王国軍(2011)、138-139頁を参照。

12) 曾煜(2011)、315-317頁を参照。

- 1 3) 包玉香 (2012) , 22-23 頁を参照。
1 4) 張秀蘭 (2012) , 173 - 174 頁を参照。
1 5) 包玉香 (2012) , 160-168 頁を参照。
1 6) 田雪原 (2013) , 323 - 325 頁を参照。

< 参考文献 >

中国語文献

張秀蘭、王振輝主編、『2011 中国社会福利發展報告』、北京師範大学出版社、北京、2012 年 5 月。

中国人口和計画生育年鑑社、『中国人口和計画生育年鑑、2013』中国人口和計画生育年鑑社、北京、2013 年 11 月。

広州老年学会編、『広州市老年人生活狀況調査』、中山大学出版社、広州、2010 年 5 月。

何文炯、楊一心、姚引妹、王先益、張翔、「浙江省老齡事業發展戰略研究總報告」、本研究課題組編著、『發展中的老年保障事業：制度与政策』（浙江省老齡事業發展戰略研究報告）浙江大学出版社、杭州、2013 年 5 月、1 - 21 頁。

華紅静、『農村社会保障問題研究 以東北農村為例』、吉林大学出版社、長春、2012 年 11 月。

国家統計局人口和就業統計司編、『2011 中国人口』、中国統計出版社、北京、2012 年 12 月。

梁宏、『社会分層視野下大城市老年人口的線損狀態 以広州市為例』、中山大学出版社、広州、2010 年 4 月。

包玉香、『人口老齡化对区域經濟發展的影響研究 以山東為例』、中国社会科学出版社、北京、2012 年 9 月。

徐佳、「体系構建篇」、張秀蘭、王振輝主編、『2011 中国社会福利發展報告』、北京師範大学出版社、北京、2012 年 5 月、141 - 246 頁。

本研究課題組編著、『發展中的老年保障事業：制度与政策』（浙江省老齡事業發展戰略研究報告）浙江大学出版社、杭州、2013 年 5 月。

田雪原、『中国人口政策 60 年』、中国科学出版社、北京、2009 年 9 月。

田雪原主編、『人口老齡化与“中等收入陷』、社会科学文献出版社、北京、2013 年 4 月。

蔡昉、「人口轉變如何影響未来經濟發展」、蔡昉主編、『人口与労働綠皮書 (2011)』、下編第二章、36 - 55 頁、社会科学文献出版社、北京、2011 年 8 月。

王化波、白心冰、「吉林省人口高齡化对消費影響的實証研究」、王勝今、干瀟主編、『中国人口老齡化問題研究』、吉林人民出版社、217-234 頁、2012 年 1 月

王国軍、『中国社会保障制度一体化研究』、科学出版社、北京、2011 年 5 月。

王勝今、干瀟主編、『中国人口老齡化問題研究』、吉林人民出版社、長春、2012 年 1 月。

曾煜編著、『社会保障』（修訂版）中国工人出版社、北京、2011 年 5 月。

殷允杰、『我国農村社会保障問題研究』、經濟管理、北京、2012 年 5 月。

英語文献

United Nations, *World Population Prospects -The 2010 Revision*, United Nations, New York, 2011.

